



March 2005

KIWC newsletter

2005年1月、釧路国際ウェットランドセンターは設立10周年を迎えました。

CONTENTS

- UNITAR釧路研修ワークショップの開催 1
- 河川整備基金助成事業の実施 1
- 姉妹湿地提携10周年記念事業 2・3
- 技術委員会の活動報告 3
- 釧路湿原自然再生協議会への参加 4
- JICA関連事業の実施 4



ジャカランダの花

国連訓練調査研修所 (UNITAR) 釧路研修ワークショップの開催

2004年11月29日から12月3日にかけて、UNITAR (国連訓練調査研修所) アジア太平洋地域広島事務所主催による研修ワークショップが、KIWCの共催により、釧路市観光国際交流センターで開催されました。UNITARによる釧路での共催ワークショップとしては5回目の、2004年に開設されたUNITAR広島事務所の主催としては初めての開催となります。

今回のワークショップでは「湿地、生物多様性と水」がテーマに定められました。水環境に着目した、生態系管理における新たな知見や技術を習得するため、アジア・太平洋地域の開発途上国を中心に、26カ国40名の行政官や専門家が参加しました。

講義や実習のほか、釧路湿原へのフィールドツアーや、地域の人々との交流の機会も設けられ、タンチョウに代表される豊かな自然環境と住民参加の実績を活かした、釧路ならではの充実した内容となりました。

また、地域の文化団体や国際交流のボランティアの多大な協力により行われた、書道・華道・茶道の日本文化紹介は、海外からの参加者に大変好評でした。

ワークショップ初日の未明に、釧路沖を震源とする最大震度5強の強い地震が発生し、参加者をおおいに驚かせましたが、幸いケガ人もなく、修了式では全員がすべてのプログラムを無事終了、笑顔で修了証書を手にする姿が見られました。



河川環境管理財団 河川整備基金助成事業

■河川環境観察会の実施

2004年10月16日、釧路川・釧路湿原について学ぶ観察会を、釧路湿原国立公園連絡協議会との共催で実施しました。この観察会には協議会により組織されている「釧路湿原子どもレンジャー」の小中学生と、サポート役の地元大学生の、約30名が参加しました。

午前中は釧路湿原北部の天然記念物地域であるキラコタン岬にて、湧き水の様子を観察しました。水量や水質を調べ、湧き水のひとつから一家庭で使う1カ月の水量が1日でわき出していることなどがわかりました。

午後からは、塘路湖畔に移動し、廃木材を利用し風車を作る工作进行了。さらに、塘路湖からカヌーに乗って釧路川を下りながら、湿原の様子や、カワセミなど水辺の生き物を観察しました。さらに上陸後は、遠古武湖近くでNPOによる植林地 (自然再生事業地) を見学しました。これらさまざまな体験をつづじて、参加者は、釧路川や釧路湿原の豊かな自然を体で学ぶことができました。

■「冬のウェットランドウォッチングツアー」の実施

2005年1月29日、「冬のウェットランドウォッチングツアー」を主催しました。子供から大人まで15名が参加、釧路湿原の中をゆっくりと走る「SL冬の湿原号」で、雪におおわれた湿原の景色を楽しみながら塘路湖を訪れました。湖畔では、雪面に残された足跡などから生き物の気配をさぐり、塘路湖エコミュージアムセンター・佐藤光則指導員の解説による氷の観察、釧路星園高校・柳敬教諭の指導による雪の結晶の実験観察を行いました。

そのほかにも、ネイチャーラフトや釧路湿原クイズなど、盛りだくさんのプログラムをとおして、冬の湿原をおおいに楽しみました。



姉妹湿地提携10周年記念事業

1994年11月に釧路地方のラムサール登録湿地 (釧路湿原/厚岸湖・別寒辺牛湿原/霧多布湿原) と、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州にあるラムサール湿地・ハンター川河口湿地 (旧登録名称・クーラガンク湿地) が、渡り鳥と湿地保全のための交流と技術協力を進めることを目的に、姉妹湿地の提携を結びました。

提携10周年を迎えた2004年には提携内容の見直しと更新が行われ、今後さらに友好と技術交流を深めていくことを確認しました。

オーストラリアから釧路へ ～姉妹湿地市民訪問団の釧路地方訪問

2004年9月24日から27日まで、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州ポートスティーブンス郡より、19名の市民からなる姉妹湿地訪問団が道東を訪れました。オーストラリア姉妹湿地からの訪問は、今回で3度目となります。

訪問団は、学校ぐるみで湿地の保全とその技術開発に力をいれている北海道標茶高校や、地域の人々が中心になって保全活動を展開している霧多布湿原などを訪れ、活発な意見交換をおこないました。また、市民レベルでの交流を今後さらに深めるため、釧路地域の国際交流団体等の関係者との交流会や、市民ボランティアの協力によるホームビジットなども実施されました。交流会では、訪問団からの贈り物として、ポートスティーブンスの人々手作りのキルトも披露され、参加者達からは、色とりどりの布で表現されたオーストラリアの動植物の姿に、感嘆や質問の声があがっていました。



釧路からオーストラリアへ ～釧路地域6市町村の代表によるオーストラリア訪問

2004年11月4日から9日にかけて、KIWC関係6市町村の代表として、KIWC理事長はじめ3名の関係者が、姉妹湿地提携の更新と今後の交流事業についての討議のため、オーストラリアニューカッスル市とポートスティーブンス郡を訪問しました。

滞在中はニューカッスル市美術館での歓迎会や、現地の専門家の案内によるクーラガンク湿地再生プロジェクトの視察、一般ビジターのための湿地観察会 (モーニングウォーク) への参加など、多数の地元関係者によるあたたかいもてなしと協力のもと、多彩な交流活動をおこないました。

ウェットランドセンター・オーストラリアで開催された姉妹湿地更新式典には、ジョン・テイ・ニューカッスル市長、クレイグ・バウマン・ポートスティーブンス郡長はじめ約50名の関係者が出席し、なごやかな雰囲気の中、姉妹湿地交流の更新提携書が調印されました。その後、関係者によるワークショップが開催され、市民交流や環境教育など、7つの提携分野における今後の活動内容について、意見が交わされました。



Photo : Sue Rostas, KWRP

調印式会場にて

「世界子どもサミット釧路大会」参加者との再会

2004年8月2日～7日に釧路地域で開催された「世界子どもサミット釧路大会 (主催: 世界子どもサミット北海道実行委員会)」において、プログラムのひとつであるポスターセッションに参加しました。

サミットでは姉妹湿地を含む9カ国30地域の、約240人の子供達を中心となり、環境をテーマとした、さまざまな交流プログラムや発表会に参加しました。

姉妹湿地提携更新の調印式には、サミットに参加したニューカッスル・キャラハン・クレジの生徒とポートスティーブンスの子供達も出席し、地域の自然と環境保全への取り組みについて発表しました。



釧路地域の児童作品をウェットランドセンター・オーストラリアに寄贈

2003年11月から2004年2月にかけて釧路地域にて開催された「ラムサール湿地保全国際子ども作品展」出品作品のうち、釧路地域の小学生による「湿地」をテーマにした公募作品18点を、ウェットランドセンター・オーストラリアに贈りました。

11月7日の調印式会場には、これらの作品が展示され、姉妹湿地友好の雰囲気を、なおいっそう盛り上げていました。

ジャカラダの花に迎えられて

オーストラリア姉妹湿地訪問記

KIWC主幹 木村 俊宏

11月5日朝、シドニー空港に到着。直ちに、マイクロバスでニューカッスルに向かう。高速道路両側のむき出しの砂泥岩盤に驚く。大陸にきたことを実感。

オーストラリアはまさに初夏。ニューカッスル市街には、ジャカラダという南アフリカ原産の高木がいたるところで薄葉の清楚な花を咲かせており、10時間を超えるエコノミークラスでの長旅の疲れを癒してくれた。

夕方、ニューカッスル市美術館での歓迎会では、ニューカッスル市長をはじめ多くの関係者から熱烈な歓迎を受けた。当日、会場では日本のセラミック作品展が行われており、それらの芸術作品に囲まれながら、情報交換するなど友好を深めた。

翌日は、関係者の案内により湿地の保護と再生の取り組み状況等を視察した。まず、チップ材による腐葉土の再生や子供たちによる植樹が行われている湿地林、及び地域住民によって保護・管理されているコアラ生息地保護区などを視察した。

午後からは、多数のペリカンやシギ類が採餌・休憩地として利用している人工干潟による再生湿地を視察した。さらに、湿地再生プロジェクトの事務所を訪見し、マングローブ林や塩湿地の再生現場、財源確保のための農場などを視察した。

7日は10年前に姉妹湿地提携を調印した記念すべき日。

早朝、ウェットランドセンターで行われている早朝散歩に参加した。周辺の市民などとともに、ガイド付のバードウォッチングを楽しんだ。ガイドや朝食の準備などがすべてボランティアの人達で運営されており、彼らの生き生きとした活動の様子が印象的だった。

10時からは、公式の歓迎式典が行われた。まず、ブリッジウォーター・ラムサール条約事務局長のメッセージ披露につづき、キャラハンカレッジの生徒とポートスティーブンスの子供たちによるプレゼンテーションが行われた。続いて、3市長による姉妹湿地の更新提携書が調印された。

午後は、姉妹湿地交流の今後の展開についてワークショップに参加した。周辺湿地の活動を束ねるコーディネーター役の必要性やボランティアの役割の重要性について議論された。これらの議論を踏まえて、今後10年間にわたる姉妹湿地交流促進のための行動計画を検討して行くこととした。

その後シドニーに移動し、11月9日、定刻どおり、釧路に無事生還。



コアラの棲む森で



関係者によるワークショップ

姉妹湿地とオオジシギ

姉妹湿地提携は、夏に釧路地域の湿地などで繁殖し、その羽音から地元で「カミナリシギ」として親しまれている野鳥・オオジシギが、冬はハンター川河口湿地などオーストラリア南東部で越冬している縁で結ばれました。

釧路市が2004年5、6月に行った「市民による野鳥調査」の結果では、釧路市の80%以上の地域でオオジシギの姿を確認することができました。

ちなみにKIWCのロゴマークは、この鳥をモチーフにしています。



海外3カ国のこどもの作品、国内ラムサール登録湿地を巡回中!

2004年2月に終了した「ラムサール湿地国際こども作品展」に出品された児童作品のうち、海外(中国・韓国・リトアニア)児童による書画100点あまりが、国内のラムサール登録湿地にてリレー展示されています。

作品の利用後に別の登録湿地に贈るという方法をかせね、各地の関係者の多大な協力により、現在までに北海道の宮島沼、クッチャロ湖、ウトナイ湖での展示をはたしました。

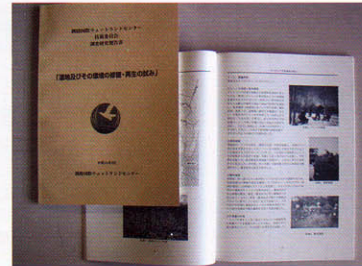
2005年1月には、宮城県の伊豆沼・内沼に次の活用を託すことになりました。

技術委員会研究報告書の発行と2004~2006年度委員会の発足

KIWC技術委員会は2001年~2003年度のテーマである「湿地の修復・再生」に関する研究をまとめた報告書を、2004年3月に発行し、関係機関等に配布しました。

2003年に自然再生推進法が施行され、釧路湿原においても「釧路湿原再生協議会」が設立されるなど、自然の再生・修復に対する社会の関心が近年急速に高まったこともあり、発行と同時に釧路地域内外から入手希望が相次ぎました。

2004年~2006年度の研究テーマは、ラムサール条約の決議にも採択された、湿地保全のための「広報・教育と普及啓発」に決定しました。これを受けて、環境教育と湿地保全のための普及啓発活動の専門家・関係者9名が委員に就任しました。今後3年間、技術委員会では、釧路地域の教育施設および自然観察施設等で展開されている、環境教育・普及啓発プログラムの事例研究を中心に活動をすすめていきます。



JICA「湿地における生態系・生物多様性とその修復・再生及び賢明な利用」研修の実施

2004年5月17日から6月23日まで、JICA(国際協力機構)集団「湿地における生態系・生物多様性とその修復・再生及び賢明な利用」研修が、JICA帯広国際センターを研修実施機関、環境省自然環境局およびKIWCを受け入れ機関として実施されました。

このテーマでは初めての研修となる今年度は、6カ国(ベニン、エクアドル、ニカラグア、パプアニューギニア、ルーマニア、スロバキア)より、環境保全や自然保護に係わる、研究者や中堅行政官7名が参加しました。研修では、湿地の生態系や生物多様性を守るため、ダメージを受けた環境を修復・再生する試みについて、沖縄諸島から北海道にわたる多種多様な事例が紹介されました。また、研修員は環境教育やエコツアーなど、さまざまな実習にも参加し、湿地の自然資源の持続的な利用方法について体験的に学びました。

釧路地域での滞在中には、ホームビジットなどの交流プログラムも実施されました。市民ボランティアの温かいもてなしで、研修員達はハードな研修の合間の、くつろいだひとときを大いに楽しみました。



JICA「自然公園の管理・運営と利用(エコツアー)」研修の実施

2004年8月23日から10月1日まで、JICA「自然公園の管理・運営と利用」研修が、JICA帯広国際センターを研修実施機関、KIWCを受け入れ機関として実施されました。

集団研修として3回目となる今年度は、6カ国(ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、中国、キルギス、ネパール、スロバキア)7名の、観光や環境保全に係わる中堅行政官を迎えて、おもに東北道にて、体験実習を主体としたエコツアー事例の紹介や、自然公園制度やエコツーリズム理論に関する講義、環境教育現場の視察など、自国におけるエコツーリズムの導入と活用に関与する、さまざまなプログラムを実施しました。また、研修場所を京都にも求め、文化遺産を利用したエコツアーの事例を学びました。

毎日頭と体を使う研修がひと月以上も続きましたが、研修員達はその旺盛な好奇心で、元気にすべてのプログラムを修了しました。



JICA地域提案型草の根技術協力研修の実施

KIWCではJICAの国民参加協力推進事業に参加し、ブータンのフオジカ谷に越冬する国際的に希少なツル・オグロツルと、その生息地の保全のための技術協力として、JICA帯広国際センターの所管のもと、地域提案型の研修を行っています。

2003年は3月6日から12日にかけて、ブータン王立自然保護協会の職員2名が釧路地域を訪れ、タンチョウの棲む豊かな東北道の自然を活かした環境教育プログラムの体験や、エコツアー等自然資源活用事例について学びました。

また、環境教育普及のためブータンに派遣された、JICAシニア海外ボランティアのお宅へのホームステイや、交流会など、釧路地域でブータンとの交流やツルの保護にかかわっている人々との交流の機会も、数多く設けられました。

引き続き2005年3月に、さらに2名の王立自然保護協会の環境教育・エコツアーの専門家を迎えての研修が予定されています。



釧路湿原自然再生協議会への参加

KIWCは、2003年に設立された「釧路湿原自然再生協議会」に発足当初より参加し、「再生普及小委員会」に所属しています。KIWCの姉妹湿地・ハンター川河口湿地で現在進行中の、自然再生プロジェクトでの事例紹介や情報提供を行いながら、釧路湿原の再生・修復に関する普及・啓発の分野において、関係者との協議に取り組んでいます。

KIWCのホームページのアクセス数が、2004年3月で2万件を超えました。

前年度比170%以上の急増となりました。2003年の自然再生推進法の施行や、2005年のラムサール条約第9回締約国会議に向けた登録湿地拡大の動きを背景に、湿地に対する関心の高まりが感じられます。今後も子供から大人まで、楽しく活用しやすいサイトをめざして、内容の更新と拡充をすすめてまいります。